『歯科技工士の目で見る補綴装置、歯科衛生士の目で見る補綴物のメインテナンス』

小林 明子

2020 年、令和の時代となりまたオリンピックイヤーとして日本中が変わろうとしています。多くの方が昭和、平成を歩んでこられ、この間、国民を取り巻く社会はあらゆる面で大きく変化してきたことを実感されていると思います。今や人生 100 歳時代を目標に、国を挙げて国民の健康保持増進に励む時代になり、歯科に対しても削って詰める治療の時代から出来るだけ良い状態で残し口腔機能管理をしていくことが求められてきています。

これから仕事がなくなると心配している歯科技工士の方が多いかもしれません。しかしながら、歯科技工はこれからが忙しい第二ピークを迎えるのは必須です。長期的な視点では口腔内にはダイナミックな変化があり、これが補綴治療、口腔の破壊につながり、今後、昭和の治療のほとんどが再治療を受けることになります。私は多くの患者メインテナンスでこの補綴治療の変化を見てきました。

令和の時代、今だからこそ歯科技工士、歯科衛生士それぞれの立場から見えたこと、知ってもらいたいことをお伝えしたいと思います。

令和の波に乗れるためのヒントとなれば幸いです。